令和７年度　学校評価の４点セット整理票（九重町）

1学期版

九重町立野矢小 学校

令和7年　4月　4日

8月　22日（ 金 ）実施

【学校の教育目標】	ふるさと野矢を愛し、協働的な学びを通して課題解決に取り組むことができる「野矢っ子」を地域とともに育成する。
【育成を目指す資質・能力】	・他者と協働する力・課題解決能力

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	担当	資質・能力との関連 知識・技能	思考力・表現力・判断力	学びに向かう力・人間性等の涵養	取組指標の検証	達成指標の検証	達成率（%）	重点目標に対する評価	改善策 今後の具体的な取り組み	学校関係者評価
協働的な学びに向かう力の育成	○ 学力調査において、基礎基本問題の平均正答率を全国平均以上にする。 ○ 授業に関する児童アンケートの以下の項目で「できた」と答える児童を60%以上にする。 ・「課題について最後まで諦めずに考えることができた」 ・「授業がわかった」 ・「友だちと協力して自分の考えをもつことができた」	学校	○ 生徒が主体的に学びに向かうための授業改善の実施 ・課題設定の工夫 ・ペア学習・グループ学習の推進	○ 研究主任は、研修計画に沿って、授業における課題設定に関する研修を１回以上実施する。 ○ 授業者は、目的に応じたペア学習・グループ学習を週２回取り入れる。	教務・研究・ＰＴＡ研修部担当	○			○事前研、模擬授業、事後研を通し、提案授業をもとに、課題設定に関する検証研修を行った。 ○授業において、「ペアやグループ学習を週2回行う」については、全員達成できた。	○学力調査において、「知識・技能」全国平均点比較、国語科＋5．5%、算数科－8．2%、理科＋17．2%。 ○授業に関する児童アンケートの以下の項目で「できた」と答える児童が平均65%だった。 ・「課題について最後まで諦めずに考えることができた」 →70% ・「授業がわかった」→65% ・「友だちと協力して自分の考えをもつことができた」 →61%	108.0%	4	○課題設定の仕方が深められるように、単元計画表を作成し、子どもたちにペア・グループの振り返りを行わせる。（授業者は教科を選び内容を深めていく）	○授業に関しては、「課題」設定のバリエーションが多くなるものになっているか検証していく必要がある。そうすることで、児童の思考が多様化される。 ○ジグソー法は最初のハードルが高くて、月1度は教職員の負担にならないか。まずは「対話をしながら問題を解決する」という意識を教職員はもとより、児童ももち、グループ活動に取り組むとよいのではないか。そのために現状のグループ活動では、何が課題となっているのかを検討するとよい。 ○熟心な指導の成果がでている。児童の学習意欲を引き出す工夫をしてほしい。
			○ ジグソー法による協調的な学習の推進	○ 授業者は、ジグソー法を取り入れた授業を月１回以上実施する。			○	○	○「授業者は、ジグソー法を取り入れた授業を月1回以上実施する」については、3／6人が行った。達成率50%				○ジグソー法の基本的な方法を知ったり、模擬授業を体験したりして授業実践を行う。	
		家庭	○ 家庭における生活習慣の確立の推進 【PTA研修部】	○ 保護者は、毎日家庭で宿題を行っているか確認する。		○			○「保護者は、毎日家庭で宿題を行っているか確認する。」については、1学期末の保護者アンケートで、「できた」→70%				○ふりかえりを行い、引き続き継続して行う。	
		地域	○	○										
他者と協力し、最後まで取り組む力の育成	○ 児童アンケートの以下の項目で「できた」と答える児童を60%以上にする。 ・「自分にはいいところがある」 ・「自分の思いや考えをまとめることができた」 ・「自分の考えを伝えることができた」 ○ 児童アンケートで ・「運動が楽しい」 ・「３０分体を動かすことが週３回以上」 と答える児童を80%以上にする。 ○ 全国平均を超える児童を長座体前屈は30%以上、握力は70%以上にする。	学校	○ 自己肯定感を向上させ、他者の良さを認める場の設定	○ 担任は、野矢っ子タイムで、人間関係づくりプログラムを週１回行う。	体育主任・生活指導・ＰＴＡ保体部		○	○	野矢っ子タイムを使って、人間関係プログラムを行ったが、集会や行事などと重なり、実施率は59%であった。	○1学期末の児童アンケートで以下の項目で「できた」と答える児童が平均74%だった。（達成率121%） ・「自分にはいいところがある」→65% ・「自分の思いや考えをまとめることができた」→61% ・「自分の考えを伝えることができた」→96% ○1学期末の児童アンケートで、「できた」と答えた児童が87%だった。（達成率　108%） ・「運動が楽しい」→87% ・「30分体を動かすことが週3回以上」→87% ○1学期末の調査で昨年の全国平均を超える児童は、長座体前屈は45%、握力は63%だった。（達成率　120%） ・長座体前屈　4月41%　7月45% ・握力　　4月30%　7月63%	117.0%	4	○野矢っ子タイムを基本として、道徳などの授業時間を使って、継続して行う。	○児童が安心して伝えられる環境が整っている。実際に、他校の児童との交流において（6年生）話せたり司会したりができる。今後は「聴く（聞く）力」をさらに伸ばしていけるとよいのではないか。受容する力や共感する力の育成を期待する。 ○朝の会や帰りの会を活用して、生活面・学習面両面から子どもたち同士が助けてもらえそうな場の設定を行う。その一助があれば、自分も伝えられるという経験を積み、学び合いながら伝え合えるとよい。 ○主体的・対話的な学習につながる力をつけさせていきたい。そのために、児童の対話に対する課題は何かを見極めていくとよい。
			○ 握力と柔軟性の向上	○ 体育主任が中心となり、パワーアップタイムや体育の授業で補助運動に週２回取り組む。		○			体育の時間に補助運動を週2回以上取り組むことができた。				○運動内容を見直し、継続して行う。	
		家庭	○ ノーメディア週間の徹底 【PTA保体部】	○ 保護者は、ノーメディア週間の徹底を図り、児童に外遊びなどで体を動かすように声かけを行う。				○						
		地域	○	○										
野矢を愛し、社会との関わりを考える力の育成	○ ゲストティーチャーの授業や社会見学を受けて、「野矢のよさを感じることができた」と答える児童を70%以上にする。 ○ 教師アンケートで、「図書館の資料や本を活用して授業を実施した」と答える教職員を100%にする。	学校	○ ゲストティーチャーや地域人材を活用した授業の促進	○ 教師は、ゲストティーチャーや地域の施設等を活用した授業を１学期に５回以上実施する。	地域連携担当・図書館教育・ＰＴＡ保体部		○		○ゲストティーチャーの招へいを7回行うことができた。	○児童アンケートで「そう思う」と答えた児童は82%だった。 ○教師アンケートにおいて「取り組めた」と答えた教職員は、100%であった。	107.0%	4	○内容のふりかえりを行いながら、引き続き継続して行う。	○野矢っ子の育成に関しては、地域や保護者が連携をして、よい思い出をたくさんつくって、将来地域の行事に参加したり、地域の事を考える事が出来る事が望ましい。三者が連携して、子どもたちに地域愛を育てていきたい。 ○この思い出から思い入れになるように学校生活から学習内容をみていくとよい。地域・保護者…学校が連携して野矢小のよさをいかせるようにすることが望ましい。 ○図書館活用に関して、子どもたちが読み聞かせをするなどの取り組みを増やしていくとよいのではないか。そのために子どもたちが興味のある本が有るとよいと思う。
			○ 図書館活用の推進	○ 教師は、学校図書館を活用した授業に学期に1回以上取り組む。		○	○		○国語を中心に図書館活用の授業を行うことができた。				○図書館司書の協力を得ながら、引き続き継続して行う。	
		家庭	○ 家庭でのお手伝いの推進 【PTA保体部】	○ 保護者は、毎日決められた役割を児童自ら取り組めたかを確認する。		○			○PTA保体部の取組として夏休み中のお手伝いの提案をすることができた。				○ふりかえりを行い、引き続き継続して行う。	
		地域	○ 読み聞かせの充実	○ 地域は、計画通り読み聞かせを実施する。			○	○	○1学期の読み聞かせを14回行うことができた。				○引き続き継続して行う。	
【働き方改革の推進】時間外在校時間の縮減	○ 1学期の時間外在校時間の月平均25時間以下にする。	学校等	○　時間外在校時間の縮減	○ 月1回、運営委員会で時間外在校時間を把握する。 ○ 毎週金曜日を定時退庁日として取り組む。 ○ 月に述べ7時間45分以上の年休を取得する。		該当する項目に○			○出退勤管理により時間外在校時間の把握を実施し，毎月全員で確認した。 ○行事黒板などを利用して毎週呼びかけ，周知はできたが，定時退庁できた日は少なかった。 ○計画表を作成して年休の積極的な取得を呼びかけたが，長期休業以外での全員の取得は難しかった。	○対象職員8人の4月～7月の時間外在校時間は，4月約15時間，5月約29時間，6月約19時間，7月約16時間となり，1学期の平均はひと月約20時間であった。	125.0%	4	○校務分掌の見直しなどを行いながら，これからも在校時間の確認や定時退庁を呼びかけ，年休を取得しやすいような職場づくりに努める。	○理想的な数字である。 ○持ち帰りの業務がどれくらいあるかを把握してほしい。